

図書館だより

'93. 7

キャンパスでみた図書館

下田 尊久 (図書館)

ニューカッスル・アポン・タインは、ロンドンから北ヘインターシティで3時間弱の北東イングランドの古い産業都市です。英国はいわゆる大都市はロンドン、バーミンガム、グラスゴーぐらいで、あとは人口が3~40万程度の規模ですからその中では大きな都市です。英国の人口は日本の約半分で面積は3分の2、国土の7割以上が「農地」ですから、どこへ行っても緑の絨毯を敷き詰めたように見えるのも当然かも知れません。ここはローマ帝国がその領土を最大限に広げていた紀元2世紀のハドリアヌス帝の時代には辺境の地の要であり、ローマからは最北端の国境地帯でした。彼らは兎の形に似



ヴィクトリア時代の典型的なテラスハウスが並ぶ住宅地

目	次
キャンパスでみた図書館 下田尊久 ----- 1	花川館の一日
この頃思うこと 杉浦篤子 ----- 3	あ・れ・こ・れ ----- 6
ひと口講座 (本館から) ----- 4	花川館購入希望図書 ----- 7
新しくなりました ----- 5	お知らせ ----- 8

たブリテン島に首輪をするかのようにここから大西洋側のカーライルまで長い城壁を築きました。これはローマン・ウォール（ハドリアン・ウォール）と呼ばれ、タイン河岸を起点になだらかな丘陵地帯を這うように東から西へと伸びています。

私の在籍していたニューカッスル・ポリテクニク（現ノーザンブリア大学）および共同研究先であるニューカッスル大学は、ともに市中心部の繁華街にあり互いに隣接していました。英国の大学には、いわゆる私立大学はなく昨年までユニバーシティとポリテクニクの二つの大学群に別れていて、ポリテクニクはその創設の目的から実践的な分野の教育がその特徴であり、研究よりは教育に重点が置かれていました。1992年に法律が改正され全ての大学の名前に「ユニバーシティ」を冠することができるようになり一斉に大学名が変わりました。個人的にはポリテクニクの名称がなくなるのはとても残念ですが、学生は「イメージの差」を気にせず今まで以上に自分にあった大学を学部・学科レベルで選択できるようになったと喜んでいました。そういうわけでポリテクニクは、University of Northumbria at Newcastle となりました。両大学には大きな中央図書館があり、資料は分野別に各フロアに配架され主題別のレファレンス・ライブラリアンが各フロア単位に配置されていました。どのフロアでも図書の検索はコンピュータ端末で、雑誌はマイクロフィッシュ目録で見ることができます。図書館は休暇中を除き平日の利用時間は朝9時から夜9時（ニューカッスル大学は10時）まで、土曜日は5時までですが日曜・祝日は閉館です。日中は貸出カウンターやコピー機の前にはいつも長蛇の列ができ上手に利用しないと時間を無駄にしまいます。また、両大学とも学生のためのコンピュータ利用施設を持っていましたが、ニューカッスル・ポリテクニクでは数か所のコンピュータ室があり、図書館にもその利

用者端末が手動式のタイプライターとともに置かれていました。ここでは図書館の資料の検索ばかりでなくコンピュータを使った実習や授業そのものも行われます。学内にこれら端末を制御する電算センターがあり、教員や学生は各自利用者IDを持つことによって研究や論文・レポート作成に利用でき、使用している文書ファイルはセンターでも保存し、いつでもフロアにコピーして自宅や研究室のパソコンでも利用できます。学生は講義のレポートをこのコンピュータを使ったEメールやハードコピーによって提出するように求められることもあり、論文審査やレポートの提出時期が重なるとこれらの施設はいっぱいになります。それに加えて一般市民も貸出は直接には受けられないものの大学図書館を自由に利用しています。「図書館先進国」である英国は今世紀初めには地域レベルで異種の図書館間のネットワークがつくられ、図書館は学生だけではなく多くの市民にとってスーパーマーケットや銀行のキャッシュポイントとともに日常生活の重要なアクセスポイントとなっています。英国経済の疲弊とともに慢性的な財政難に苦しむ図書館ですが、少ない予算で資料を効果的に収集するため館種を越えた司書レベルでの会議をもち自館の資料構成に反映する努力をしていると聞きました。外見からは「後進国」といわれる日本の図書館の方が新刊本も揃っていて建物も明るく充実してきています。しかし、私自身が今また図書館に仕事を与えられて、英国の図書館を思い起こしてみるとあらためて社会を支える図書館の役割の重要性を感じています。

下田さんは今年4月から私達図書館員の仲間となって開かれた図書館を目指していきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

～この頃
思うこと～

保育科

杉浦篤子



私の手元に一本のビデオテープがある。1986年夏、子供の本・世界大会が東京、青山にある子供の城で開催された時のものであるから、もう7年も経ってしまっている。その公開シンポジウムで、パネリストとして出席していた画家安野光雅さんが、司会者の「今の子供達がおかれている状況について」という質問に、「昔の人間である大人達が、昔はこんなことはなかったとか、子供は塾にばかり通い、さっぱり本も読まなくなつたと言うが、確かに以前とは周囲の状況が違っている。が子供は見事にその変化に対応しているのであって、対応の出来ない大人が、昔は、昔は、といっておろおろしているのだ」と言い切っているのが大変に痛快で強く印象に残っている。その状況は今もちっとも変わっておらず、子供を学生に置き換えればいだけであると思う。そして「今の若者は本を読まなくなつた」と言われて久しいが、本当にそうなのだろうか。私は現代の洪水の如き出版物のあまりの量の多さに到底追いついては行けない。若い作家の小説、エッセイ等々にもさっぱり興味をそそられない。それはある種どこかの部分を放棄していると認めはするが、いささかの痛みも感じていない。なにを選択するかだと思っている。しかし若者達はその膨大な中から、自分の好みのものを選び、感じ取り、メディアを利用し、そして彼等は芥川も夏目漱石も素晴らしい作品であると言い、いつか読むのだとも言う。彼等のほうがよほど柔らか頭である。



と思うのだが一方自発的行動力がない、非常に柔軟な面があるのに妙にゆうずうの利かない頑固さをみせる、気になるところではある。若いとはこうであったかと思ひ返してみる。私は学生時代にも、20代にも戻りたくはない、私にとって若さとは以外に手強い、面倒な代物だったから。若者達だつてももしかしたら自分の若さに手を焼いているかも知れないじゃないか。だつたら黙って見ていよう、彼等もやがて年を重ねるのだから。本との出会いは人間とのそれにも似ていると言われるが、人生のどの時期で自分に大きく働きかけてくる作品あるいは作家に出会うか分からない。私にとっての一人は、エロール・ル・カイン絵本作家である。しかし彼の作品に出会って、それからわずか数年後、1989年ガンで逝ってしまう、47才。東洋と西洋とが不思議に溶け合った魅力あふれる作品を残して、ミュージカルキャッツの原作的絵本をかいた人といったらご存知の人もあるかもしれない。邦訳されていない作品もまだかなりある。なんとか一冊でも多く手にしてみたいと思っている。外国での出版状況は全くわからないが、日本の絵本の出版、流通を知ってたまげた。（「驚いた」より上）一冊の絵本は普通初版8000部から5000部が作られる。ここでは8000部として、2000部はまず出版社が在庫で持つ、あと6000部を取次へ回す。それを取次は書店に配本してゆく。全国には3万店にも及ぶ書店があるのだから、その絵本が行くのは1000軒にも満たない、さらに新刊本は50%ぐらい戻ってくるという、3000人の読者の目にとまるだけなのだ。本屋の棚でふと手にした絵本が気に入ったとしたらそれは運命的な出会いかもしれない、といつてもあながち大袈裟ではないのである。私の本棚はすでに絵本専用となってしまった。



ひと口講座

<没後〇〇年>の作家たち

～本館から～

今年、1993年は、日本の作家が数多く、没後〇〇年を迎える年です。そこで今回本館からは、その中から何人かご紹介しようと思います。

寺山修二（没後10年）は46年という短い人生の中で、10代の頃から詩・短歌・俳句・小説・論文・エッセイ・戯曲等を積極的に世に送り出しました。元夫人で、劇団天井桟敷と一緒に運営していた九條映子（現・今日子）との結婚式では、立会人として谷川俊太郎が出席しました。詩人である谷川俊太郎は『マザー・グース』の訳者としても有名ですが、実は寺山修二も『マザー・グース』の訳本を出版している事を皆さんご存知でしたか。

「国語の授業で読みました!」という皆さんも多いのではないのでしょうか。100を優に越える、多くの幻想的な童話を**宮沢賢治**（没後60年）は書き残しています。これらの童話や詩の源流になっている、文学的出発になっているとも、日記的意味を兼ね備えているとも言われているのが短歌です。生涯独身を通した宮沢賢治ですが、17才の時、入院先の看護婦さんに初恋をして、父親に「結婚したい。」と申し出たものの叶わぬ恋に終わった…というエピソードが残されています。この初恋を詠んだ短歌を基にして、多くの文語詩稿が制作されました。

没後70年を迎える、**有島武郎**・**大杉栄**は、いずれも女性と共に突然に、人生の幕を閉じてしまったという共通点があります。有島武郎は『婦人公論』の編集者だった波多野秋子と、軽井沢の別荘で心中し、当時の新聞に大きく掲載されました。有島武郎は札幌に所縁の深い作家ですが、ニセコ町の有島記念館では、命日の6月9日から特別展が開催されています。アナーキストの大杉栄は、神近市子（戦後に衆議院議員として活躍した）に短刀で刺される事件に遭い、その後女性運動家の伊藤野絵と革命の道を進みましたが、1923年に伊藤野絵と共に憲兵隊により虐殺されました。

その他、没後10年に**里見亨**・**小林秀雄**、没後20年に**大佛次郎**、没後40年に**斎藤茂吉**・**折口信夫**、没後50年に**島崎藤村**、没後60年に**小林多喜二**、没後90年に**尾崎紅葉**、古くは没後300年に、**井原西鶴**が該当します。

本館ではいずれの作家も図書をはじめ、特集が組まれた雑誌等、各種所蔵していますし、寺山修二をはじめ新たに受入れされる全集もあります。

<没後〇〇年>は書店でもフェアを催す等作品を手にする絶好の機会ですので、長期休暇を利用して読んでみるのもいかがですか。

夏休みの図書館

<開館> 7月30日(金)～8月9日(月)
8月17日(火)～8月28日(土)
9月6日(月)～9月14日(火)

<閉館> 8月10日(火)～8月16日(月)
8月30日(月)～9月4日(土)

開館時間 月～金 9:30～16:00 / 土 9:30～12:30

新しくなりました

もうみなさんはお気づきでしょうか？

本館のサイン（閉館ふだ、図書館利用案内、書庫案内図）が新しくなりました。

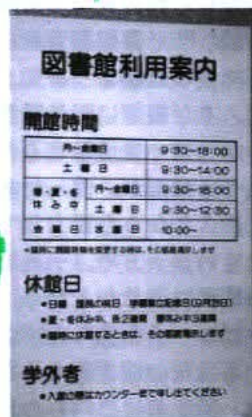
以前、開館前に図書館に入ってしまった、
“まだですよ！”と言われた経験はありませんか？

でも、もう大丈夫！ 誰の目にもハッキリと
わかる大きなスタンド式のものになりました。
ちなみに、通常は9:30から、会議のある水曜日は10:00からの開館になっています。

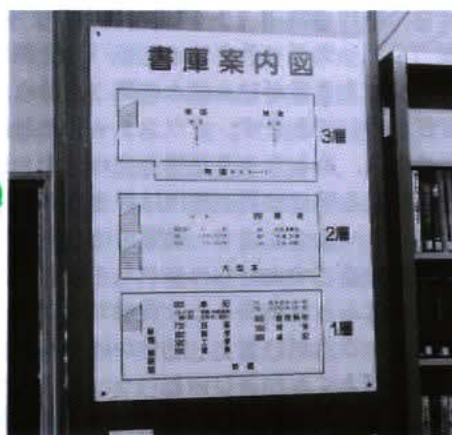


ここは、みなさんもよく利用している所だと思えます。館員みんなでああでもない、こうでもないと考えをめぐらせた結果、出来上がったものです。いかがでしょうか？

今までは、ずいぶん細かく表示してありましたが、それを大まかなものに絞ってみました。前に比べると、少々不便だと思う方もいるかもしれませんが、詳しくはカードケースの上などにある“図書館配置図”を参考にしてみてください。わからないときは、“館員を使う”という手かもしれませんね。



手書きのものから一新しました。
ちょっと暗くて人目につきにくい所
ありますが、開館時間、休館日等、大切なことが書いてあります…



これから少しずつ変わっていく図書館
をお・楽・し・み・に…

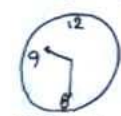
花川館の一日 ~あ・れ・こ・れ~



麻生発花川キャンパス行きの大学専用バスが門をくぐり、くねくねと回って正面玄関に到着。図書館職員数名もこれに乗って出勤します。



8:50A.M. 書架整齊から私たちの一日の仕事が始まります。書架整齊とは、本が書架に記号通りに並んでいるか一冊一冊点検する作業です。ひどい乱れはありませんが、使った本はもとの場所に戻すよう、これからも協力してくださいね。書架整齊をしている一方で、一人は毎朝交替で、新聞を当日の朝刊にとりかえたり、複写機のチェックやコンピュータを立ち上げたり、カウンターまわりや事務室の拭きそうじなどをして開館に備えます。開館前にこれらの仕事を終えるのはなかなか忙しいものです。



9:30A.M. 開館です。1人2人と入館してきます。キャレルに座って辞書をひく人、窓側のテーブルで雑誌を読む人、外の空気も図書館も、一日の中でいちばん澄んだ、静かなひとときです。



10:30A.M. 一講目が終わります。ブックディテクションのバーを押して入る音がひんばんに聞こえ始め、館内もざわめいてきます。カウンターにもわかに忙しくなり、本とカードが行き交います。次の授業が始まる頃には再び館内は静まり返り、カウンターも一息つきます。閲覧席には空き時間を図書館で過ごす人たちの姿がちらほら。検索コーナーにふと目をやると、背中でHELPサインを出している人がいます。声をかけてみると、キー操作がよくわからないという。このような場面はよくあります。コンピュータ検索は使い慣れるまでは少し難しいかもしれませんが、わからなくなったら遠慮なく係にきいてください。

係がひんばんに出たり入ったりしている図書館事務室、私たちの仕事はカウンター業務だけではなく、他にもさまざまな仕事があるのですが、事務室の中では主に整理業務をしています。(カウンターに出ながら一部分その仕事もしているのですが) 図書は一冊一冊主題によって細かく分類し、請求記号を決め、カードを作成し、ラベルやブックポケットを貼り、ようやく新着書としてデビューします。書店から藤女子大学図書館の蔵書となり、いくつかの過程を乗り越えて、一人前となって皆さんの前に現われる本たち。大切に、そして大いに利用してください。



4:30A.M. 閉館です。毎日があっという間です。消灯、戸締まり、貸出の集計、翌日の準備をして、花川館の一日が終わります。

施設は新しく冷暖房が整い、花川館は快適な図書館といえるでしょう。昨年の夏休み中は、冷房のきいた花川館で文学部のある4年生が卒論を書いていました。でも資料や設備の面ではまだまだ不十分です。急な進歩は難しいとしてもより良い図書館を目指しながら、今ある状況の中、できる限りの手段で、求める資料、情報の提供に力を注ぎたいと思っています。



花川館
購入
希望



で入った図書です

“花川館の一日”の中にも登場していた一人前になった本たちのご紹介です。今回は特に、購入希望図書を何冊かピックアップしてみました。

花川館ばかりではなく、本館の方もどうぞ…

「積極的考え方の人生—喜びと情熱があなたを新しくする—」 N.V. ヒール著
ダイヤモンド社 1986 [159-P31]
名著「積極的考え方の人生」で世界中の人に支持されたヒール博士が高ストレス社会を乗り越えて成功と幸福をつかむ秘訣を語る。
(DIAMOND BOOKS CATALOGUE 1991 Part II より)

「魔女と聖女」 池上俊一著
講談社現代新書 1992 [230.4-I33]
女性蔑視と崇拜のなかで、中・近世の女性たちはどう生きたか。「魔性」と「聖性」をキーワードに読み解くヨーロッパ女性史。
(道新 1992.12.17 より)

「童話・昔話におけるダブル・バインド 思维様式の東西比較」 十島雍蔵、十島真理著
ナカニシヤ出版 1992 [388-To72]

「私を抱いてそしてキスして エイズ患者と過ごした一年の壮絶記録」 家田莊子著
文藝春秋 1990 [493.8-I21]

「栄養おもしろゼミナール 楽しみながら食べものの知識が身につくQ&A集 Part 2」
<食生活健康books 7> 前川當子監修
フットワーク出版 1991 [498.5-E39-2]

「バイオテクノロジーと食品 バイオ食品の安全性確保に向けて」 バイオテクノロジー・ワーキンググループ訳編 建帛社
1991 [498.5-I57]

「四季の英国紅茶」 出口保夫著、出口雄大イラスト 東京書籍 1992 [596.7-D53]
本場・英国の紅茶の楽しみ方が各月ごとに、その月の行事や自然の姿と共に、エッセー風に描かれる。三月の復活祭の時期はアール・グレー茶、四月なら、窓辺で木々を眺めながら…。紅茶を通じ英国文化、生活習慣に接することができる。(道新 1992.3.15より)

*この他の著書で図書館で所蔵しているもの。
「イギリス四季暦 春/夏」(本館)
「イギリス四季暦 秋/冬」(本館)
「続 イギリス四季暦」(本館)
「午後は女王陛下の紅茶で」(花川館)

「スポーツの栄養・食事学」 鈴木正成著
同文書院 1986 [780.1-Su96]

「国境の南・太陽の西」 村上春樹著
講談社 1992 [913.6-MU43]

「河童の手の内幕の内」 妹尾河童著
文藝春秋 1992 [914.6-Se72]
初公開、河童の秘密と“覗き”のコツ!なぜ、河童が本名なのか。河童流旅行術とは? 細密イラストいっぱいの美味珍味傑作集。
(波 1992.5より)

「満潮 短編集」 アト・レ・ピ・エ・ル・ト・マ・ア・イ・ア・ク
著 河出書房新社 1989 [953-Ma43]

変わりました

お知らせ

昨年4月花川館閉館に伴って、“学内貸借”の制度が始まりました。これと平行して、自分の通っていないキャンパスの館に、直接足を運んで本を借りる“直接利用”もできるようになりました。その直接利用で、貸出手続きをした館でしか返却できなかったのが、どちらの館で返却しても良いことになりました。今までの不便さがかなり解消されたのではないのでしょうか。どうぞこれを機にご利用下さい。

ただし、更新は借りた館でしかできません。あしからず。

花川図書館では、昼休みも貸出をするようになりました。今まで、昼休み(11:00~12:00)をカウンター休止時間としていたのが廃止されました。開館時間中でしたら、貸出はいつでもOKです。

最近、延滞をしてしまった学生さんに理由をきいてみると、“体の具合が悪かったんです”などと言うのをよく聞きます。中には、“入院していました”などといった学生さんも、ちらほら見かけます。そういう場合は、だまってそのままにせず図書館に連絡して下さいね。これから夏休みに向けて、借りた冊数、返却期日等の自己管理をきちんとして下さい。

新しい雑誌が入りました

本館	月刊トピックフレンズ(朝日出版社)	季刊をる(双樹舎)
	近代文学研究(日本文学協会近代部会)	
花川館	アサヒカメラ(朝日新聞社)	ESP(経済企画協会)
	美学(美学会)	人類学(講談社)
	エコノミスト(毎日新聞社)	NHK 新・婦人百科(日本放送出版協会)
	エコノミスト別冊(毎日新聞社)	Newsweek: International ed.(Newsweek Inc.)
	世界週報(時事通信社)	理想(理想社)
	小説中公(中央公論社)	ソシオロジ(社会学研究会)
	栄養学レビュー(建帛社)	

藤女子大学 図書館だより 第43号 1993.7.15
藤女子短期大学

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館
TEL 011-736-0311代 FAX 011-709-4770